

キッチンの色彩提案

—インテリアスタイルとキッチンの色彩の組み合わせによる視覚的印象—

四方 ゆ希

[指導教員：武庫川女子大学准教授 北村薫子]

1. 研究の背景

食事は、私たちが生活する上で欠かせない大切なものである。食事を楽しむためのダイニングルームと食事を準備するキッチンが一つの空間になり、日本の公団住宅に初めてダイニングキッチンが採用されたのは昭和30年代。当時のキッチンは形もカラーも種類が少なかった。昔から最新のものまでキッチンの種類の変遷を見ると、年々形やカラーの選択肢が増加し、それぞれの個性を出し、インテリアの一つとして楽しめるものとなってきている¹⁾。しかし課題として、キッチンは部屋の片隅に置かれた食事を作るための作業空間というイメージがまだまだ定着しており、長い時間をキッチンで過ごす主婦と家族との間でのコミュニケーションが滞ってしまっている。そこで、キッチンの配置や形、デザイン性の多様化によって、孤立しがちなキッチンをより身近な存在にすることが重視されてきている。

2. 本研究の目的

キッチンはリビングダイニングと家族をつなげる場として、キッチンの色彩によって室内の印象に影響を与えると考えた。そこで、キッチンの色彩とリビングダイニングとの関係性に着目し、室内全体につながりや一体感のある空間を提案することで、より家族が集まりやすく、食を通してコミュニケーションがとれるような空間を目指した今後のキッチンの色彩計画に活かすことを目的とする。

3. 既往研究と本研究の位置づけ

既往研究のダイニングキッチンのイメージと色彩²⁾では、ダイニングキッチンの写真図形の中のキッチンユニットとソファの配色変化をし、SD法による実験が行われていた。そこで本研究では、配色変化をキッチンのみにし、写真画像を複数用いることで、キッチンの色彩がインテリアスタイルの異なるそれぞれの部屋でどのような影響を及ぼすのかを明らかにする。

4. 研究方法

4-1. 実験条件

(1) 写真条件

リビング、ダイニング、キッチンが一つの部屋にあるLDKの写真4種類(図1)を使用した。写真はそれぞれインテリア

スタイルの異なる「ナチュラル(a)」「クラシック(b)」「カジュアル(c)」「モダン(d)」な部屋を選択した。

(2) 色彩条件

実際にキッチンに使用されている色をカタログから選択し、白、黒、赤、黄、緑、青、紫、木目の8種類とした(表1)。

以上を組み合わせ、合計32条件を変化要因とした。



図1 LDKの写真

表1 キッチンの色度表 (L*a*b*表色系)

赤	L*=26 a*=38 b*=23	黄	L*=96 a*=-6 b*=32
緑	L*=81 a*=-15 b*=22	青	L*=6 a*=7 b*=-28
紫	L*=83 a*=9 b*=-18	木目	L*=77 a*=9 b*=-2

4-2. 実験手順

LDKの写真とキッチンの色彩を組み合わせた画像を作成し、A4 フォトマット紙に印刷された写真を1つずつ被験者に見せ、室内全体の印象を7段階のSD法を用いて評価させた。評価項目は今回の実験に適していると考えられる10項目の形容詞対とした(表2)。同時に、「料理はするか」「自宅のキッチンの色」「好きなキッチンの色」などの選択式アンケートも行った。被験者は武庫川女子大学の学生16名、40～50代の主婦16名の計32名とし、平成25年11月14日～12月9日に実施した。

表2 評価項目

好きな⇔嫌いな	調和のとれた⇔不調和な
暖かい⇔冷たい	軽やかな⇔重々しい
個性的な⇔平凡な	親しみやすい⇔親しみにくい
清潔な⇔不潔な	楽しい⇔つまらない
高級な⇔安っぽい	落ち着きのある⇔落ち着きのない

5. 結果および考察

5-1. アンケート調査による評価の結果

自宅のキッチンの色については、約半数が白、次に4分の1ほどが木目であった。好きなキッチンの色についても約半数が白であったが、学生の場合は2番目に木目が多いのに対し、主婦で木目を好む人は少なく、黄を好む人が多かった。また、好きなキッチンの色の写真は必ずしも高評価になるとは限らず、部屋の違いによって好き嫌いの評価が変動することが分かった。

5-2. 学生と主婦による高評価な部屋の比較

すべての項目において高評価であったのは、学生の場合、写真aとdでは白、写真bとcでは木目のキッチンとの組み合わせであった。一方で主婦の場合は、いずれの写真画像においても、白のキッチンとの組み合わせが最も高評価であった。全体的な評価としては、学生と主婦で大きな違いは見られなかった。

5-3. 評価項目別にみた分析結果

(1) 「調和」の評価と色彩との関係

部屋の評価に最も重要であると思われる語の「調和のとれた」「不調和な」について、それぞれの写真ごとに評価平均を求め、比較した(図2)。白と木目のキッチンはどの部屋の写真においても高評価であったが、他の色では、写真aでは黄、写真bとdでは黒、写真cでは赤のキッチンが高評価となっており、部屋によって、調和していると感じるキッチンの色が異なることが分かった。

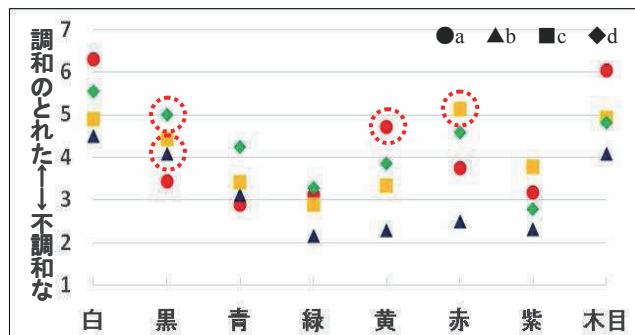


図2 「調和」評価の平均値

また、写真の室内仕上げとキッチンの色度を測定した(図3)。赤のキッチンで調和の評価が高かった写真cでは、家具や壁のタイルなどに暖色系のものが多く、部屋の配色とキッチン色が近い関係にあることが分かった。同様に、木目の家具を基調とした写真aでは木目や木の色に近い黄のキッチン、黒系の家具や小物が多い写真dでは黒のキッチンの場合に調和の評価が高くなっていたことから、部屋の色分布と近い位置にキッチンの色が分布している場合は調和していると感じ、離れた位置に分布している場合は不調和に感じるという傾向があることがわかった。

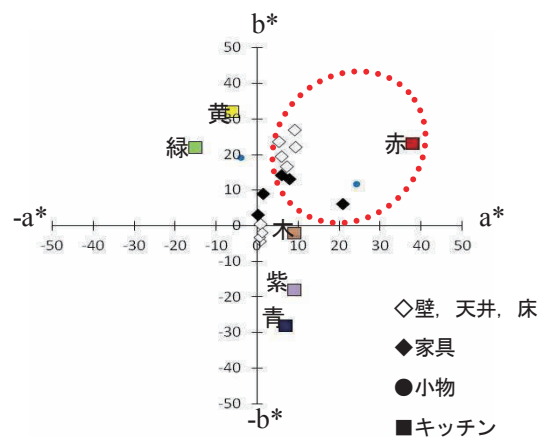


図3 室内仕上げとキッチンの色度(写真cの場合)

(2) 「清潔感」「高級感」の評価と明度との関係

キッチンの色の明度と評価の関係をグラフに表した。図4の清潔感については、明度の高い色のキッチンの場合に評価が高く、図5の高級感については、明度の低い色のキッチンの場合に評価が高くなっており、どの部屋でも同様の傾向にあった。

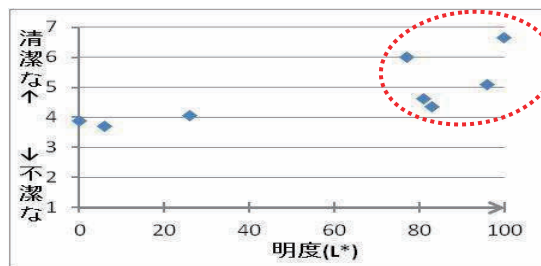


図4 キッチンの明度と「清潔感」の評価

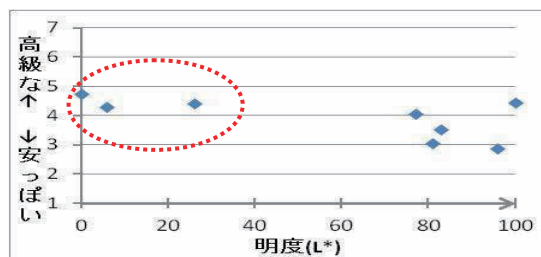


図5 キッチンの明度と「高級感」の評価

6. 結論および今後の課題

キッチンの色彩は、色相や明度の影響が大きく、部屋の配色に近い色にすることで調和した印象になり、明度の高い色にすると清潔感、低い色にすると高級感のある印象になる傾向があった。また、部屋との組み合わせによっても印象が異なるため、キッチン単体で好みの色を選ぶのではなく、どんな配色の部屋にキッチンを置き、どんな印象の部屋にしたいかを考慮し、それに合ったキッチンの色を選択することが重要であると考えられる。

注及び参考文献

- 1)株式会社 LIXIL HP, <http://www.lixil.co.jp/catalog/?Ltop=header>
- 2)日原もところ, 斎藤幸子, 飯田健夫: ダイニングキッチンのイメージと色彩, デザイン学研究第23回研究発表大会概要集, 138-139, 1976